

労働安全衛生・保安防災

労働安全衛生／化学物質リスク低減

2019年の主な取り組み／実績



ISO45001認証を取得

(台湾拠点)



化学物質取り扱い作業におけるリスク低減

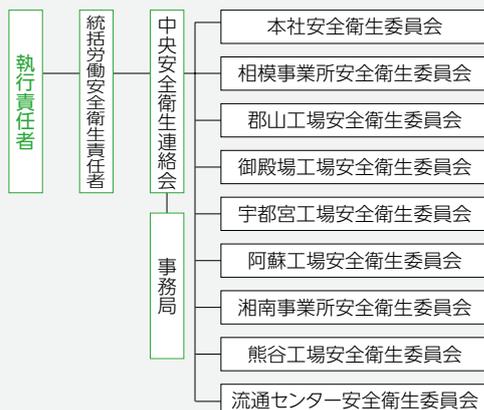
基本的な考え方

当社は、働く人の安全と健康確保は事業活動を行う企業の社会的責任であり、全てのステークホルダーからの要請であるという認識のもと、働きやすい職場、安全な職場の提供を通して、安全文化の醸成と定着、そして従業員の幸福度向上を目指しています。

安全衛生体制

当社は労働安全衛生活動において、各拠点の安全衛生委員会の年間活動計画を基に各種予防活動を実行しています。拠点単独では対応できない全社的な課題については、総務本部長をトップとする安全衛生連絡会で検討し、拠点を越えた水平展開が必要な施策の実施状況についても情報を共有しています。このような組織体制のもと、化学物質による薬傷災害や発火事故、機械や重量物による重篤な災害の予防に取り組んでいるほか、万が一労働災害が発生した場合の徹底した安全対策の実施とその水平展開を進めています。

労働安全衛生管理機能組織図



ISO45001認証の取得

近年、お客様から、ISO45001認証の取得要求やRBA要求事項への適合といったご要望も多く寄せられています。こうしたご要望に応えるとともに、当社の労働安全衛生水準の向上と労働災害による事業継続リスクの低減を図るべく、国内拠点におけるISO45001の認証取得に取り組んでいます。また、この活動を通じて、従業員の高齢化や省人化対策、メンタルヘルス対策といった各種安全衛生上の課題解決等を図ります。

2019年は、海外子会社である台湾東應化社の銅羅工場においてISO45001の認証を取得しました。国内拠点については、2020年の御殿場工場での認証取得を皮切りに、順次取得を進めていきます。

腐食性が高い化学物質の取り扱いにおけるリスク低減の取り組み

当社では、半導体関連製品を製造する際、腐食性を持った化学物質も使用しているため、日頃より製造ラインや作業方法の見直しを進めるとともに、同じ化学物質を使用する拠点間の安全対策の情報を共有し、安全対策の向上に努めています。また、2019年はこれまで自社で進めてきた安全対策の妥当性を確認するとともに、潜在的な危険源を洗い出すため、阿蘇工場で第三者機関による安全衛生監査を実施しました。その結果を踏まえ、腐食性の高い化学物質の取り扱いに関する社内指針を策定、運用開始するなど、さらなる安全衛生レベルの向上に努めています。

緊急事態対応訓練／環境自覚教育／事故防止対策ガイドライン教育の実施

当社では、各拠点で運用する環境マネジメントシステムにおいて、緊急事態および地震等の自然災害を考慮した「潜在的な緊急事態の可能性」を明確化し、定期的な対応

訓練を実施しています。また、多くの外部業者の方々も当社拠点の敷地内にて工事や機械のメンテナンス等を行っていますが、2019年は、外部業者の方々も作業を行う際の環境事故や労働災害発生を防止するため、全社共通のルールとなる「外部業者管理ガイドライン」を策定、運用開始しました。各拠点では、本ガイドラインに基づいた詳細な外部業者管理のルールを設定し、事故や災害の未然防止に努めています。



緊急事故対応訓練(宇都宮工場)

労働災害防止活動

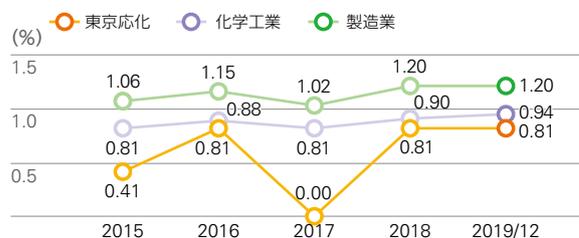
従業員が安全に働ける職場の実現を目指し、各拠点の安全衛生委員会は、労働災害防止に向けた活動を拠点ごとに展開しながら、様々な要素について維持・向上を図ってきました。加えて、事故や労働災害が発生した場合の緊急処置等を定めたマニュアルの整備や、計画的な従業員教育・訓練、従業員の安全意識の醸成など、グループ全体で安全レベルの向上に取り組んでいます。

2019年は13件(休業災害2件、不休災害11件)の労働災害が発生しましたが、災害度数率は製造業および化学工業平均を下回っています。また、2019年に発生した労働災害には重量物の移動時に発生したものが含まれており、当社グループの製造工程において重量物取り扱い作業が多数存在することから、重大なリスクと捉え、同作業を対象としたリスクアセスメントおよび対策を全拠

点で実施し、再発防止に取り組みました。

今後も労働災害リスク「0」を目標に、リスク低減活動および従業員の安全意識の向上に努めていきます。

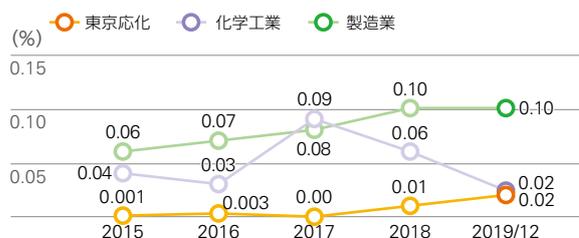
労働災害度数率 (%)



※度数率:100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数であり、災害発生頻度を示す。

度数率=(労働災害による死傷者数/延実労働時間数)×1,000,000
(労働災害による死傷者数=1日以上休業を必要とした死傷者の数)

労働災害強度率 (%)



※強度率:1,000延実労働時間あたりの労働損失日数であり、災害の重さの程度を示す。

強度率=(延労働損失日数/延実労働時間数)×1,000
(延労働損失日数=労働災害による死傷者の延労働損失日数)
化学工業および製造業のデータ出典:厚生労働省「労働災害動向調査」

今後の課題と取り組み

当社グループでは既に取得しているISO9001、ISO14001に加え、2018年より労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の認証取得に取り組んでおり、2023年までに本社を含む国内全拠点での取得を目指しています。また、取り組みにあたっては認証取得がゴールではなく、従業員の安全と健康を継続的に向上させるため、労働災害を防止する強固なマネジメントシステムの構築に努めていきます。

tok's Human Resource

人事部 副部長
仁木 克広



ISO45001取得により、安全文化の醸成を加速します

当社では、従来の安全衛生管理活動をより統一かつ効率的な仕組みに変革すべく、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の導入に向けて取り組んでいます。ISO45001の取得は、従業員の安全衛生意識の向上、事故・災害リスクの低減を図るとともに、顧客や従業員からの信頼向上につながります。

国内工場としては、2020年6月に初めて御殿場工場が認証を取得しました。今後はこの経験を他拠点と共有しながら、全拠点での取得に向けて取り組んでいきます。また、CSR活動の一環として、「安全で安心して働ける企業」の実現を通じ、社会的信頼の向上も図っていきます。